

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

山形県 蔵王・熊野岳(1,841m)

山形県山岳連盟では、2017年「山の日」制定記念事業として第18回県民登山を蔵王連峰の熊野岳(1,841m)で行った。

秋分の日(9月23日)の蔵王ライザスキーワールドの駐車場に集合して開会式を挙げる。伊藤吉樹岳連会長の挨拶の後、コースの説明などがあつた。

6時50分に雨模様の中を出発。コースは熊野岳に直接上がる中丸山コース。出発後、天候は回復に向つた。約3時間のハードな登りで9時55分熊野岳に登頂。

頂上での休憩後、下山は馬の背から刈田駐車場、御田神湿原経由でスキー場に戻り、閉会行事を行つて無事解散となつた。

PR不足と当日の雨で参加者が12名と少なかったが、ガスの晴れ間に見えた御釜の景観、御田神湿原の草紅葉、坊平の信仰登山の旧跡などを満喫することができた。



蔵王ライザスキーワールドから出発



濃霧の晴れ間に御釜が見えた

Giri Giri BOYS K7 Expedition 2017 報告

ももとは横山・長門・増本の3人で向かうはずだったカラコルム・チャラクサ氷河の遠征。2014年にこの3人でバダルピークからのK7ウェスト縦走をトライしたが失敗に終わっていて、今回は再びこの3人で同じようなスタイルのクライミングを計画していた。そこに佐藤が同行を申し出てきた。同時に、縦走よりもビッグウォールフリークライミングを熱望していた増本が佐藤と意気投合し、縦走隊とフリー隊の2チームに分かれてクライミングを行なうこととなった。横山・長門チームは、K7主峰南西稜もしくはK7西峰南西稜のアルパインスタイル登攀が目標。増本・佐藤チームは、バダルピークの新ルートのカプセルスタイルのオールフリーで拓くのが目標。

日山協の奨励金申請には3人で計画書を提出していたが、どちらの隊のクライミングも成功すれば価値のあるものとなる可能性を秘めていること、日本出国から帰国までBC滞在も含めて行動がほぼ同じことを考慮し、給付された20万円は4人で分配することに決めた。

4月からの3ヶ月間は、瑞牆や日本アルプスでのトレーニングをそれぞれのチームで行なつた。6月下旬からは富士山に滞在し、高所順応もうまくいったと思う。

- 7/10 出国。と思いきや、フライトキャンセル。成田泊。
- 7/11 出国。ラホールまで。
- 7/12~17 イスラマバード、ならびにスカルドウにて準備。フーシェまでは車で移動。
- 7/18・19 キャラバン。フーシェ~サイチョー~BC。ポーター29名。
- 7/20・21 偵察、順応の準備、ボルダリング。
- 7/22~25 高所順応。横山・長門はBCより西に位置するドリフィカ(6,400m)、増本・佐藤はBCのすぐ北に位置するソルピーク(5,800m)を目指す。ラッセル、新たな降雪、雪崩の危険等により、それぞれ山頂には立たずに下山。
- 7/26~28 ボルダリング、偵察、準備等。増本・佐藤はベアトリス東壁に目標を変更。
- 7/29~31 横山・長門は再度順応。結局、K7主峰を

ベアトリス東壁10ピッチ目。5.13aの核心

